

北海道河川溯上マス調査記録

(カラフトマス及びサクラマス)

Reports on the Resources Research of the Pink and Masu Salmon
returning up to the Rivers in Hokkaido.

まえがき

北海道のマス漁業は沖合漁業(母船漁業、基地漁業)あるいは日本海マス漁業等の陸揚を含めて、最近3,000～4,000万尾にも達する生産をあげているが、これら沖合漁業が大規模に行なわれる以前の漁業生産の状況から見て、北海道の沿岸に回遊し、それぞれの地区河川にそ上産卵する魚群が著しく増大したものとは考えられない。

北海道の河川を再生産の場とするマス魚群の大きさを明らかにするためには、沿岸漁業の実態を正確に知るとともに沖合漁業との関係を分析し、マス漁業として合計されているサクラマス、カラフトマスの生産統計の分離等今後検討を要する問題が多い。

この報告は、これら沿岸回遊群の実態を明らかにして有効な繁殖援助の施策を講ずるため、1963年から1965年までに河川そ上群に関する河川毎の聞き取り調査を進めて来た概要をとりまとめたものである。個々の河川の記録は関係の支場あるいは事業場員の活動によるもので、各年の調査記録を検討し一部調整を行なった。

調査実施に当たっては、各地区漁業協同組合あるいは地元釣魚会等から情報の提供を受け、また各支場、事業場の各位の活動によるところが多く、ここに記して謝意を表す。

この報告は次の25名が参加し、本場、支場及び事業場員の協力を得てそれぞれの地区の調査を分担した。

佐野誠三・西野一彦・桑田 治(総合) 麓 竜司(渡島) 大久保正一・早坂誠一(天塩) 石川嘉郎・菊地資郎(十勝) 原田 滋・池田善博(千歳) 川端 肇・鎌口憲治・卯都木三郎・須藤満雄・尖戸戦助・北川克己・永井啓太郎・幸内憲六・田口昭雄(北見) 小林明弘・武田金太郎・沢田勝行・関谷定男・田浦久雄・坂口利夫(根室)

調査の方法

この調査は、北海道沿岸の428河川を対象として五つの区域に区分しそれぞれの河川のサクラマス及びカラフトマスについて河川そ上、産卵時期、天然産卵状況、河口沿岸の漁況及び河川溯上数等を調べた。

五つの区域及び河川の数に次の通りで、この中には情報の得られなかった河川も含んでいる。また、この他に無名小河川が80余あるが、その実態についてはほとんど調査は行なわれなかった。

海 区	範 囲	河 川 数	備 考
オホツク海区	(知床岬～宗谷岬)	84 (ホロモイ川—ウエンナイ川)	} 河川表による(1955)
日本海区	(宗谷岬～白神岬)	147 (クトノベツ川—大沢川)	
根室海区	(納沙布岬～知床岬)	121 (モイレウシ川—別当賀川)	
エリモ以東海区	(襟裳岬～納沙布岬)	32 (アーツ川—蟹川)	
エリモ以西海区	(白神岬～襟裳岬)	44 (横ノ下川—歌別川)	
計		428 (他に無名河川80以上あり)	

各河川ともそれぞれの地区の支場担当者が現地調査を行なって、情報を集めるとともに、特殊河川あるいは人工ふ化実施河川では親魚捕獲状況から適確なそ上数を推算し、また産卵場所、時期、あるいは稚魚の発生降海時期等に関する情報を集めた。

河川の数が多くいづれも辺地に及ぶため、全河川について現地調査を行なうことが困難であったため、付近住

民の情報のみによるものも多い。

沿岸の漁獲統計はサクラマスとカラフトマスの区分がなく、その分離は漁況、魚価等の関係でやや困難のため、一部の河川沿岸の資料から推定を行なった。

調 査 結 果

現在、わが国で一般にマスと称しているカラフトマス及びサクラマスは、いずれも分類学上サケ科 (Salmonidae) のサケ属 (*Oncorhynchus*) に属し、淡水産のマス (*Salvelinus* あるいは *Salmo*) とは異なった属で、生態も淡水で生れて海洋で成育する習性をもっている。

また、カラフトマスとサクラマスはともにマスとして統計に現われ、それぞれの種類の割合が明らかにされていない。

生態の異なる 2 つの種類を一括して集計されていることは、資源量の推定あるいは生態分布等の研究に大きな障害となっていて、速かに分離統計の実施が強く要望せられる。

これら 2 種の漁獲統計の分離は、現在の集荷の状態、価格の違い、あるいは沿岸回游の時期等の関係から急に改めることは困難と思われるが、地方によりまた河川によってもその割合の大きく異なる状況等から、資源変動の実態を明らかにするため正確な魚種別統計の作成が急がれる。

北海道におけるマスの漁獲は第 1 表 (カラフトマス+サクラマス) の通りで、1955~56 年頃から急に著しい上昇を示し、サケ・マス漁業生産の極めて大きな部分を示すに至っている。

この状況は北海道に基地をもつ沖合漁業の生産を含むものであって、真の北海道沿岸に來游し河川にそ上する魚群のみの漁獲は、この漁獲高の $\frac{1}{2}$ あるいは $\frac{1}{3}$ と推定されている。

次に、これらのマス漁獲のうち、カラフトマスとサクラマスの割合は、地方によりまた年によって変異が大きく、一般的に見てカラフトマスの占める部分が大きく、マス漁獲の多い年にはカラフトマスの割合が著しく多い。また、マス漁獲のやや少ない年にはその割合が低下する傾向が見られ、この現象はサクラマスの回游がやや安定していることと、カラフトマスの回游変動の大きいことを示すものである。

第 1 表 北海道マス漁業、漁獲尾数 1945~1964 (母船漁業を除く)

年 度	漁獲尾数(1,000尾)	年 度	漁獲尾数(1,000尾)	
1945	2,069	1956	31,165	(註) 北海道水産現勢、漁獲高表より、1尾の重量貫からは400匁、kgからは1.5kgとして換算した。 (1月~12月)
1946	632	1957	31,378	
1947	2,464	1958	32,498	
1948	730	1959	37,007	
1949	6,103	1960	30,504	
1950	3,130	1961	40,875	
1951	5,168	1962	17,567	
1952	14,811	1963	35,709	
1953	10,935	1964	17,868	
1954	12,339			
1955	26,181			

1. カ ラ フ ト マ ス

A 生 態

カラフトマスはほとんど北海道の全沿岸に分布し、オホツクおよび根室湾の沿岸に最も多い。本種は標識放流試験等によって知らされている通り、5~6月頃沿岸を通過して北方海域へ回游する群と、6~8月頃北方から南下して来る群とがあり、アキサケ等と同様に北海道の河川にそ上して産卵する魚群は、主としてこの南下群と考えられている。

北海道河川溯上マス調査記録

これらのカラフトマスは6月初旬頃より道東の一部河川に溯上を始め、次第にその範囲を拡め8月頃までにはほとんど北海道の全沿岸に及ぶ。本種の河川を上最盛期は7～8月で一部河川では10月下旬まで溯上が続き、最近の情報によれば青森県の一部河川にも溯上することが確認されている。

カラフトマスの産卵場はサケよりやや上流でサクラマスより下流の河川中流に多く、地方あるいは河川によってはサクラマスとほぼ同様の地域を利用し、サケ属の中では最も流れの速い場所を選定している。

またサケ等のように湧水地域を選ぶことはなくむしろこれを避ける傾向がある。産卵の行動はサケやサクラマスとほぼ同様で、雌が卵床を作り産卵後被覆も雌が行なう。

産卵期はサクラマスよりやや遅く9月～10月で、河水温のやや高い時期に行なわれるため初期の発生は速かでは30日以内に発眼する。産卵場は河水の良く流通する急流を選定しているため、卵床内温度は河水温と同様に変化し、気温の低下する冬期には次第に発生が遅延し、河水の凍結する厳寒期にはほとんどその進行が停止の状態を呈する。

北海道の河川では12月より2月までこのような低温が続くため著しく発生が遅れ、3月に入って水温がやや上昇するにつれて発生も進行し、産卵後90～120日を経てふ化するが、更に卵床内で卵黄吸収まで成長を続け、ふ化後日80～100日を経て始めて卵床上に現われて来る。本種の稚魚の河川への浮游は産卵の時期、河川の状況等によって異なるが、産卵後200日前後の日数を要する。

これらの稚魚群は浮游と同時に降海を始めるが、河川内では多くの餌をとらず、沿岸に出て活発な摂餌を行ない急速に成長して海洋へ姿を没する。

沿岸に姿を現わす時期は例年4月末乃至6月初旬の候で、河川内の滞留期間と沿岸滞在期間はともに著しく短い。

稚魚群が沿岸に現われる時期の環境特に餌料生物の発生状況の多少は、これら稚魚群の成長生残率等に極めて大きな影響があり、自然産卵の稚魚群の出現と餌料生物の発生の時期とは極めて良く一致している。

海洋生活初期の状態は未だ良く解明されていないが、北海道以外の地方へ回游する魚群も含めて考えると、極東の河川で発生した魚群は夏期にはやや下層を游泳して、北太平洋の180°—42°—43°N付近にまで及び、次第に北上してアリューシャン列島を越えてベーリング海に入り、更に西に移動してから南下し北海道方面に向うものと推定せられる。

降海した魚群は翌年の6月に既に沿岸河川に回游しその秋には成熟して産卵する。本種の海洋生活期間は約12カ月余でサケ属の中では最も短かく、発生後15～16カ月で親魚となり成熟産卵後は斃死する。

B 沿岸回游、河川そ上量

北海道の沿岸に來游するカラフトマスは前述の通り5～6月頃から姿を現わし、6～7月を峰として多少にかかわらずほとんどの河川に溯上するものと思われる。

河川にそ上する時期は6月初旬より10月に及び7～8月が最も多い。特に、オホツク海区及び根室海区は河川に溯上する数も多い。

沿岸來游資源の量は漁獲統計がサクラマスとともに集計され、また北海道に基地をもつ沖合漁業の漁獲量も含まれているため正確な数を知ることは困難であるが、地区河川毎に情報を集め一部検討を加えて河川総そ上量を推定した。(第2表)

これらのそ上数は地区によりまた年によってやや大きな変動が見られるが、北海道周辺89河川について調べられた結果は第3表及び別表1の通りである。

これらの河川の中には現在人工ふ化用親魚の捕獲が行なわれているものを含めやや正確な数を知り得たが、その他の小河川のそ上量は付近住民の情報によるものが多い。

海區別河川そ上状況

(オホツク海区)

この海区は宗谷岬から知床岬に至る間のほぼ全河川に溯上が認められ、北海道内では最も多産地区である。その河川数は74河川に及んでいるが、このうち39河川について調べられた状況は次の通りである。

過去3年間の調査から3,000尾以上のそ上が認められる河川は12河川に達し、岩尾別川、斜里川等は10,000尾以上、網走川、常呂川、湧別川、滑渚川及び徳志別川等3,000～8,000尾のそ上河川が多い。

この地区の河川溯上総数は3～4万尾から10万尾余と推定され、西暦奇数年は豊漁の傾向ががやや明らかに認められ、北海道の全河川そ上量に対し奇数年にはほぼ70%、偶数年には30%余を示している。

この豊凶年の傾向は後述の根室海区と相反する状態を示し、根室海区では偶数年に豊漁の傾向が見られる。

(日本海区)

宗谷岬から白神岬に至るこの海区のうち、溯上の認められる河川は留萌地方の小平川付近までと考えられる。しかし、最近の情報によれば極めて少数のものが小平川以南の河川にもそ上しているといわれ、更に南の青森県老部川でもそ上が確認されている。

この地区で特に溯上の多い河川は天塩川の1,000～2,000尾のみで、その他の河川は100～200尾のそ上が認められるのみで、沿岸の回遊はやや多いにかかわらず河川そ上数は3,000～6,000尾に過ぎない。

(根室海区)

知床岬より納沙布岬に至るこの海区はオホツク海区に次いで多産地域で、特に西別川の40,000尾を最高として標津川、風連川、別当賀川等も10,000尾以上のそ上が認められているが、その他の河川の溯上数はやや少ない。

この地区の総溯上数は4～8万尾余で西暦偶数年に豊漁の傾向が見られ、前記オホツク海区とは相反する状況を示している。

また西別川、別当賀川、風連川等には多くの溯上が認められるが年による変動がやや大きい。

(エリモ以東海区)

納沙布岬からエリモ岬に至るこの海区は多少にかかわらずほぼ全域にわたってそ上が認められていて、釧路川、十勝川等は2,000尾余の溯上が推定されている。

この地区の河川は特に溯上の多い河川が少なく、阿寒川、別寒辺牛川、歴舟川等は1,000尾余、その他はほとんど500尾以下を示している。

総そ上推定数は6千～1万尾で河川数は19河川を数え年による変動はやや少ない。

(エリモ以西海区)

エリモ岬から白神岬に至る津軽海峡、噴火湾を含むこの海区は溯上河川が最も少なく、胆振地区の鷓川の2,000尾余を除き、いずれもそ上量は著しく少ない。

この地区の総そ上推定数は3,000尾余で、100～500尾の溯上河川は僅かに7河川に過ぎない。

以上各地区別の河川そ上状況の概要を示したが、オホツク海区、根室海区の河川に最も多く、オホツク海区のそ上推定数は北海道全沿岸の30%（偶数年）から70%（奇数年）に及び、カラフトマスの再生産はこの地区の豊凶によるところが多い。

根室海区の河川はオホツク海区の不漁年である偶数年に豊漁の傾向があり、年によっては全道総そ上推定数の60%以上を占め、この両海区の河川溯上量の多少は北海道のカラフトマスの好、不況を左右している。

北海道の河川に溯上して産卵するカラフトマス群の総量は8万尾から16万尾余と推定せられ、このうち3万尾乃至5万尾が人工ふ化用の親魚として利用され、残りの親魚群は一部密漁その他による産卵前の減耗を除いて、自然に産卵し再生産が行なわれていると考えられる。

第2表 カラフトマス河川溯上推定数

海 区	1963	1964	1965	河川そ上期	産卵期	河川数
オホツク海区	110,400	35,200	75,500	5月中旬～10月下旬	8月中旬～10月下旬	39
日本海区	6,000	4,700	2,500	7月下旬～10月中旬	8月下旬～10月中旬	7
根室海区	38,100	81,800	70,700	5月中旬～10月上旬	8月下旬～10月下旬	17
エリモ以東海区	6,100	9,800	8,400	6月上旬～10月下旬	8月下旬～10月下旬	19
エリモ以西海区	3,000	3,200	1,100	6月中旬～8月下旬	8月下旬～10月上旬	7
計	163,600	134,700	158,200	5月中旬～10月下旬	8月中旬～10月下旬	89

北海道河川溯上マス調査記録

カラフトマスの人工増殖事業は第3表の通り、オホツク海区、根室海区河川を主として毎年26～27河川において親魚の捕獲が行なわれ、このうちオホツク海区の岩尾別、斜里、渚滑、湧別、徳志別等の数河川及び根室海区の西別、標津、風連等の諸河川は捕獲も多いが他の海区の河川は釧路川、天塩川等で2～300尾から1,000尾余の捕獲があるにすぎない。

1965年度の捕獲実施河川はオホツク海区14、日本海区1、根室海区11、エリモ以東海区1、計27河川で行なわれ38,941尾を捕獲し、22,104,450粒を採卵、21,600,000尾の稚魚を放流している。

第3表 カラフトマス人工ふ化用親魚捕獲数（河川内）

海 区 河 川	1961	1962	1963	1964	1965	捕獲期間	備 考	河川
オホツク海区河川	19,562	11,289	35,323	8,964	31,300	6月中旬～ 11月上旬	岩尾別、斜里、 渚滑川等	14
日本海区河川	47	5	69	234	135	7月上旬～ 10月上旬	天塩川	1
根室海区河川	6,568	38,210	3,625	36,772	6,474	5月下旬～ 10月下旬	西別、標津川等	11
エリモ以東海区	—	—	—	22	1,032	8月上旬～ 10月中旬	釧路川	1
エリモ以西海区	—	—	—	—	—	—	—	—
計	26,177	49,504	39,017	45,992	38,941	5月下旬～ 11月上旬	27河川	27

2. サ ク ラ マ ス

A 生 態

サクラマスは前年の11月頃既に一部北海道南部の沿岸に現われ、次第に成長しつつ密度を増して北または東方に拡がり4月頃から一部河川にそ上を始める。

河川そ上の最盛期は5月～6月で多くは河川中流に留り8月末から9月初旬頃には更に上流へ移動を始め、産卵場を求めて大小支流にもその姿が見られる。

産卵期は9月初旬より10月初旬に及び最盛期は9月中～下旬である。産卵期の河水温は7～8℃から20℃にも達し初期の発生は極めて速かである。

産卵場の多くは流速のやや速い(30～50cm/Sec) 渓流が利用されていて特に湧水域は選ばない。卵床内の温度は河水温の上下に伴って変化する所が多い。

産卵はサケなどと同様に雌が作り産卵後も雌が被覆を行なう。一般的に見て体色の薄い魚体ほど急流を利用する傾向が見られる。また、産卵期が近づくとつれて雌1尾に雄2～3尾が追尾し、多い時には5～6尾の雄の見られることがある。

しかし産卵時にはサケ等と同様にそれぞれ1尾宛の組となるが、河川型の成熟雄魚の2～3尾が参加することが多い。

これらの卵は河水温の影響を受けて初期発生は著しく速く30日以内に発眼期に達するが、その後は水温の低下によって発育が次第に遅れて産卵後90日～120日を経てふ化し、更にふ化後浮游までには100日前後を要する。従って、サクラマス幼魚が河川に出現する時期は産卵後200日余を経た4月下旬～5月初旬以後となり、湧水域に産卵するサケなどに比べてかなり遅れる。

河川に現われた稚魚群は体長35～40mmで稚魚マークが明らかに認められ、豊富な餌料にめぐまれて急速に成長し6月には40～50mm、7～8には60～100mmにも達する。

更に、9月～10月と成長を続けて冬期水温の低下する11月12月までには110～130mmに成長する。また、6月より9月までの間は極めて活発に餌を摂り、この期間中にそのうちに成熟する雄魚が認められ、その割合は雄の20～30%にも達する。これら年内に成熟した雄魚を除き体長120mm前後に成長した幼魚は、翌年3～4月頃までに変態して体はやや細長となり体表銀白となって4～6月の間に降海する。

降海時のサクラマス幼魚の雌雄比は♀70：♂30を示し雄の数が著しく少ない。これらの降海魚は沿岸に出て極

めて活発に摂餌し、120～150mm、25～50gr. に成長して7月中旬までに沖合へ姿を没する。

北海道オホツク海沿岸の一部では初冬のころ（11月頃）、これら降海群と思われる体長350mm余の魚体に成長したサクラマスの漁獲があり、沿岸小定置にやや多く乗網する群がある。

また、北海道南部の沿岸では前年の11月頃より沿岸に姿を現わし釣漁業の対象となり、3～4月には400～500mmに成長して河川そ上を始める。これらの魚群の雌雄比は降海時のそれとほぼ同様でその $\frac{2}{3}$ は雌である。

この種類の海洋生活期間は約10カ月余で、浮游後27～28カ月で親魚となり、産卵後は斃死する。

B 沿岸回游、河川溯上量

サクラマスの来游は北海道全沿岸に及び至る所の河川に多少にかかわらず溯上し、また降海前の淡水生活期の幼魚の姿が認められている。

沿岸来游は前年の11月頃より5～6月に及び、道南地域から次第に北東方に拡がり9月頃までにそれぞれの河川に溯上する。

河川そ上は4月～7月あるいは8月の間で5月～6月に最も多く、産卵期は8月下旬～10月上旬で9月中に最も多い。これら河川溯上期あるいは産卵期はいずれの地域、河川でもあまり大きな相違は認められない。

1965年度においては、オホツク海区、根室海区及び日本海区の16河川で人工ふ化用の親魚の捕獲が行なわれ、5,469尾の親魚が捕獲されているがいずれもサクラマスの河川そ上の全期間にわたって行なわれている所はなく、やや遅れて捕獲が始められている所が多いためこの捕獲数は全そ上数の20～30%以下と推定されている。

北海道の沿岸428河川のうちサクラマスの溯上が認められているものは、146河川を数えほとんど全沿岸地域に及んでいる。このうち、オホツク海区及び日本海区の河川に溯上が最も多く、総溯上推定量は10万～15万尾を示し海区別の割合は第5表の通りである。

これらの調査河川以外にも未だ少数の溯上河川があると考えられ、特に奥尻島などの小河川にもやや多くの溯上知られている。

海区別河川そ上状況

（オホツク海区）

この海区は重要な再生産地域で3,000尾以上のそ上の認められる河川は斜里川、渚滑川、幌内川、徳志別川、猿払川等である。特に渚滑川、猿払川等は5,000尾以上の溯上が認められている。

また1,000尾以上のそ上河川もやや多く常呂川など14河川を数える。この地区の総溯上推定数は4～5万尾と推定されるが、更に多くの河川について詳細な調査が必要である。

（日本海区）

宗谷岬から白神岬に至るこの海区の河川は溯上量が特に多く3,000尾以上のそ上河川は天塩川、尻別川、泊川、千走川、須築川、利別川、太櫓川、見市川、厚沢部川および余別川等10河川を数え、天塩川の8,000尾余を始め5,000尾以上の溯上河川も尻別川他4河川に達する。

この地区の特徴はそ上数の特に多いこれらの河川以外はほとんど500尾以下の小河川で、中位の1,000～2,000尾のそ上河川は著しく少ない。

総そ上推定数は4～5万尾に達するものと考えられ北海道各地区の中で最も多く、サクラマスの再生産地域としてはオホツク海区とともに重要な位置を占めている。

（根室海区）

知床岬から納沙布岬に至るこの海区の溯上河川は16河川まで確認せられ、特に3,000尾以上の溯上河川は別当賀川1河川のみで、2,000尾余の河川も標津川、西別川、当幌川の3河川を数えるのみである。

この地区の総溯上推定数は1～2万尾余でやや少ないが、前記の2,000～3,000尾の溯上する河川はいずれもその上流が未開発地域に及び、幼魚群の棲状況あるいは沿岸の漁獲等から見てそ上総数、再生産量ともにやや大きいものと思われる。

（エリモ東海区）

納沙布岬からエリモ岬に至るこの海区の溯上河川21水系を数えるが、2,000尾以上溯上する河川は十勝川及び釧路川の2河川のみで、その他の河川は200～300尾のものが多く、総溯上量も1万尾余と推定せられる。

この地区の十勝川及び釧路川は北海道内有数の大河川で、その上流は多くの支流に分岐して著しく大きな地域

北海道河川溯上マス調査記録

に拡がり幼魚群の棲息量は極めて多く、サクラマスの繁殖河川として重要な位置を占めている。

(エリモ以西海区)

エリモ岬から白神岬に至るこの海区は静内川、鶴川等のほかは2,000尾以上溯上する河川が極めて少なく、34河川のうち200~300尾の溯上河川が大部分を占めている。

この地域の総溯上推定数は1万~1.6万尾を示しているが、河川数及び溯上尾数は更に多いものと予想せられ、各河川上流地区の降海前の幼魚の数はやや多く、特に沙流川、遊楽部川などはこれら幼魚数の多いことで知られている。

以上各地区別の溯上状況を見ると、日本海区、オホツク海区が最も多く、根室海区がこれに次ぎ、太平洋沿岸の両海区はいずれもやや少ない。

河川溯上量は例年ほぼ同様の傾向が見られ、年による変動はカラフトマスなどより小さく、漁業の生産もほぼ安定している。

全沿岸の総溯上数は第4表及び別表2の通り15万尾余と推定せられ、各海区別の割合も例年ほぼ同様の傾向を示し、未確認の河川あるいは正確な溯上期間の調査によって、この数量はやや多くなることが予想せられる。

現在、北海道ではこれら河川溯上群のうち4,000~5,000尾の親魚が人工ふ化事業に利用され、約300~600万粒の採卵、ふ化、放流が行なわれているが、河川溯上期から成熟期までの期間が2~3カ月にも及び、他の種類に比して蓄養催熟がやや難しく、人工ふ化を行なうためには生理、生態等今後究明しなければならない問題が多い(第5表)。

従って、北海道のサクラマスの再生産はこれら人工ふ化によるもののほか、早期にそ上して各河川の上流に達する親魚の自然産卵がやや大きな部分を占めると考えられ、総溯上推定数から見て人工ふ化の部分は著しく小さく、稚魚の生産量は総発生量の20%前後と推察せられる。

第4表 サクラマス河川溯上推定数

海 区	1963	1964	1965	河 川 溯 上 期	産 卵 期	河川数
オホツク海区	37,400	49,300	44,900	3月下旬~10月上旬	8月下旬~10月中旬	40
日 本 海 区	46,700	59,400	37,500	4月上旬~8月下旬	8月下旬~10月中旬	35
根 室 海 区	7,000	12,900	22,000	4月上旬~9月上旬	8月下旬~10月上旬	16
エリモ以東海区	11,800	12,300	9,700	4月上旬~8月下旬	8月下旬~10月上旬	21
エリモ以西海区	1,000	14,200	16,200	4月上旬~8月下旬	8月下旬~10月下旬	34
計	113,900	148,100	130,300	3月下旬~10月上旬	8月下旬~10月下旬	142

第5表 サクラマス人工ふ化用親魚捕獲数(河川内)

海 区	1961	1962	1963	1964	1965	捕 獲 期 間	備 考	河川数
オホツク海区	1,348	2,081	2,245	5,360	1,773	5月下旬~10月下旬	岩尾別, 渚滑, 興部川等	7
日 本 海 区	505	281	917	1,230	635	7月上旬~10月上旬	天塩川, 尻別川	2
根 室 海 区	1,972	787	1,754	1,719	3,061	6月上旬~10月中旬	標津, 别当賀, 西別川等	7
エリモ以東海区	—	—	—	—	—	—		
エリモ以西海区	—	—	—	—	—	—		
計	3,825	3,149	4,915	8,309	5,469	5月下旬~10月下旬	16河川	16

C 北海道沿岸マス漁業（サクラマス+カラフトマス）

(1) 総漁獲量と沿岸漁獲の割合

北海道のマス漁業は前述の通り、最近 3,000~4,000 万尾の漁獲があり、1956~1957 年頃から急に生産増大の傾向がみられているが、これらの状況は沖合漁業の発展による所が大きく、北海道の沿岸に來遊し、それぞれの河川にそ上産卵する群がこのように増大したものは考えられない。

北海道のマス漁獲統計は沖合漁業の一部が基地漁業の生産として集計されているため、沖合漁業によって増加した生産量を正確に分離することはやや困難であるが、北海道各地区の漁獲の状況から沿岸漁業生産量を推定して見るとほぼ第 6 表のような傾向が見られる。

最近のマス漁業生産の状況を見ると根室及び釧路地区の生産が、北海道全沿岸漁獲の 75~90% (1959~1964) を占め、その他の地区の漁獲合計は 10~25% となっている。

主として沿岸漁業のみの生産と思われる 1945~1950 年間の地区別漁獲の状況を見ると、根室、釧路地区の漁獲は平均 54% を示し、その他の地区の平均は 46% を示している。

これらの状況から、この割合の変化は沖合漁業の障揚によるものとして、北海道沿岸漁獲量は根室、釧路地区を除く各地区の合計が連年 46% 前後を示すものとして、最近 (1959~1964) の沿岸漁獲量を推定して見ると 600~1,500 万尾を示し、これは総漁獲量の $\frac{1}{2}$ ~ $\frac{1}{3}$ となり沿岸のみの漁獲は著しい増加を示していない。

これらのマスの漁獲状況は前年の 11 月頃から始まりは 10 月で漁期が終るが 11 月~12 月の漁獲は翌年秋の産卵群であって、前年の 11 月からその年の 10 月までの漁獲をその年の漁獲とすることが妥当と考えられるので、北海道水産現勢の地区別、月別総計表を基として集計整理して見ると第 6 表のような結果が得られた。

第 6 表 北海道沿岸マス（カラフトマス+サクラマス）漁獲数

年 度	① 総 漁 獲 数 (11月~10月)	② 沿 岸 漁 獲 数 (11月~10月)	備 考
1959	37,033,000 尾	13,375,000 尾	(註) 北海道水産現勢の漁獲トン数より 1 尾 1.5kg として換算。 (1)は月別漁獲表より前年の 11 月よりその年の 10 月までの合計。 (2)は釧路、根室地区を除くその他の地区の合計が 46% を占めるものとして推算。
1960	30,493,000	15,973,000	
1961	40,887,000	7,275,000	
1962	17,439,000	6,385,000	
1963	35,479,000	12,085,000	
1964	18,120,000	6,468,000	
平 均	29,909,000	10,261,000	

(2) サクラマスとカラフトマスの漁獲割合

次に、サクラマス及びカラフトマスの漁獲の割合は地方によりまた年によってやや変動が大きく、価格あるいは、集荷機構等の関係もあって魚種別区分が行なわれていないため、その漁獲高の割合を知ることは困難であるが沿岸回遊、河川上上状況などからこれを区分しその割合を推定して見た。

北海道の沿岸に來遊しそれぞれの河川にそ上するカラフトマスは 5 月から 9 月までの間に來遊し、その期間はやや短かく特に 6 月~7 月にその大部分の漁獲が行なわれる。またサクラマスは前年の 11 月から翌年の 4 月まで、特に北海道の西南部の沿岸に回遊し、3 月~4 月に漁獲されるものが最も多い。

これらの状況からカラフトマスの漁獲はその大部分が 5 月以降 10 月までにあげられ、その他の各月の漁獲はサクラマスと考えることができる。

しかし、サクラマスの河川上時期を見ると 5 月~7 月の間にもやや多くのそ上があり、5 月以降にもやや多くの沿岸回遊魚のあることは明らかで、この期間中に漁獲されるサクラマスとカラフトマスの割合によって、サクラマスの漁獲が更に多くなることが予想せられ、今後詳細な調査が期待せられる。

また、サクラマスは前年の 11 月頃から一部の漁獲があり、一つの年級群の漁獲総数はその年の 11 月~12 月の漁獲を除いて、前年の 11 月~12 月の漁獲を加える必要があり、この方法によってサクラマス及びカラフトマスの漁

北海道河川溯上マス調査記録

獲割合を推定してみると第7表に示すような傾向が見られる。

これらの漁獲の傾向は更に修正を要するもので、両魚種の統計の分離と地区別の漁獲の時期あるいはその混合割合等今後の調査に待つところが多い。

第7表 北海道沿岸サクラマス及びカラフトマス漁獲数 (1959~1964)

	サクラマス+カラフトマス 沿岸漁獲尾数	(1) サクラマス 漁獲尾数	(2) カラフトマス 漁獲尾数	備 考
1959	13,375,000	1,884,000	11,491,000	14% : 86%
1960	15,973,000	2,292,000	13,681,000	14% : 86%
1961	7,275,000	1,093,000	6,182,000	15% : 85%
1962	6,385,000	1,500,000	4,885,000	23% : 77%
1963	12,085,000	1,902,000	10,183,000	16% : 84%
1964	6,468,000	1,148,000	5,320,000	18% : 82%
平 均	10,260,100	1,636,500	8,623,600	サクラマス 16% カラフトマス 84%

註 ① サクラマスの漁獲は前年の11月からその年の4月までとした。

② カラフトマスの漁獲は5月より10月までの分。

要 約

① この報告は、北海道の河川を再生産の場とするサクラマス及びカラフトマス資源の実態を明らかにするため、北海道の428河川及びその沿岸を対象として、1963年から3年間にわたって行なわれた河川毎の聞き取り調査結果の概要である。

② 北海道におけるカラフトマスの沿岸回游は5月~9月まで、河川溯上は7月~8月に最も多い。産卵期は9月上旬より10月下旬に及ぶ、河川発生稚魚群の淡水滞留期間はサケ、マスの中で最も短かくまた成熟年令も最も若い。

③ サクラマスの沿岸回游は前年の11月頃からその年の5~6月に及び3月~4月に最も多い、河川溯上は3月に始まり6月頃までで8月下旬から10月上旬の間に産卵する。発生稚魚群は1年間淡水に留まり、2年目の4~5月頃銀白に変態して降海し海洋へ向う。

④ カラフトマスの北海道の河川に溯上する量は85,000~160,000尾余と推定せられ、西暦奇数年豊漁の傾向が見られる。またオホーツク海区及び根室海区の河川に溯上が最も多く、北海道溯上数の90%以上を占めている。

⑤ サクラマスの河川溯上数は110,000~150,000尾余と推定せられ、年による変動はやや少なくオホーツク海区および日本海区の河川に溯上が最も多い。

⑥ 北海道のマス漁業の生産は最近3,000~4,000万尾にも達しているがこの数は沖合漁業の陸揚げを含むもので、北海道の河川に溯上して繁殖する魚群は600~4,000万尾余で、全漁獲の $\frac{1}{2}$ ~ $\frac{1}{3}$ と推定せられる。

⑦ マスとして一括集計されているカラフトマスとサクラマスの漁獲割合はカラフトマス84(77~86)%, サクラマス16(14~23)%を示すものと推定されるが、両種の河川溯上数から見て、サクラマスの回游割合は更に多くなることが予想される。

⑧ カラフトマス資源は奇数年に多い傾向が認められ、本種の豊凶によってマス漁業の生産が大きく左右せられる、サクラマスはほぼ安定した回游があり例年あまり大きな変動がない。この両種の割合の変動はカラフトマスの変動によって生じている。

⑨ カラフトマスの人工ふ化事業は27余の河川において、親魚25,000~45,000尾を捕獲し、20,000,000尾前後の稚魚の放流が行なわれサクラマスは16余の河川で3,000~8,000尾の親魚を捕獲し、3,000,000~6,000,000尾の稚魚を生産して放流している。

文 献

- 北海道：—1945～1965. 北海道水産現勢，北海道水産部
北海道さけ・ます・ふ化場：—1945～1966. 事業成績書，北海道さけ・ます・ふ化場
北海道さけ・ます・ふ化場：—1955. 北海道における鮭鱒増殖基本計画資料 I，北海道さけ・ます・ふ化場
北海道さけ・ます・ふ化場：—1955. 北海道河川表，北海道鮭鱒孵化場資料 101.
北海道：—1964. さけ・ます・保護水面管理事業事業（成績報告書(1)）北海道
佐野・西野・桑田：—1965. ます資源調査報告，北海道さけ・ます・ふ化場，日本水産資源保護協会
北海道立水産孵化場：—1965. 北海道のサクラマス増殖対策と問題点，北海道立水産孵化場
(文責 佐野誠三)

北海道河川溯上マス調査記録

河川 上 状 況

カラフトマス

別表 1

河川表 番号	河 川 名	延 長 料 数	溯 上 時 期	産 卵 時 期	産 卵 場 (河口より の料数)	溯上推	調 査 河 川 番 号
						定 数	
						1965	
1	ホロモイ川	1.5	7月下旬~10月上旬			100	1
3	オケツチウシ川	3.5	8月上旬~10月中旬			300	2
6	テツパンベツ川	5.2	7月下旬~10月中旬		2.0	200	3
7	ルシヤ川	4.5	7月下旬~10月上旬		1.5	3,500	4
8	ボンベツ川	2.0	7月下旬~10月上旬		0.4	200	5
11	イタシユベツ川	5.1	8月上旬~10月中旬	10月中旬~10月下旬	2.0	1,000	6
12	岩尾別川	7.0	7月下旬~10月下旬	9月下旬~10月下旬	1.0	13,000	7
13	幌別川	7.0	7月下旬~10月中旬	10月上旬~10月下旬	1.5	2,400	8
14	ベレケ川	7.0				100	9
15	フンベ川	6.8	7月中旬~9月上旬	9月下旬~10月下旬	1.5	100	10
18	遠音別川	10.2	7月上旬~8月上旬	8月下旬~10月中旬	3.0	400	11
19	金山川	4.8	8月上旬~10月中旬			100	12
22	糠真市川	10.2	7月下旬~10月中旬	10月中旬~10月下旬		100	13
23	海別川	20.5	7月上旬~10月中旬	8月中旬~10月中旬	7.0	1,000	14
24	斜里川	35.0	6月下旬~10月下旬	8月中旬~10月下旬	15.0	10,000	15
25	止別川	30.0	7月中旬~10月上旬	8月中旬~10月中旬	7~20.0	1,500	16
26	浦士別川	20.0	7月中旬~10月中旬	8月下旬~10月中旬	14.0	500	17
29	藻琴川	30.0	7月中旬~10月中旬	8月下旬~10月中旬	18.0	1,000	18
30	網走川	31.1	8月上旬~10月中旬		5~10.0	1,000	19
33	常呂川	145.0	5月中旬~9月下旬	8月下旬~10月中旬	70.0	2,500	20
40	湧別川	87.7	8月中旬~10月下旬	9月上旬~9月下旬	40.0	3,500	21
45	藻鱈川	32.0				3,000	22
46	渚滑川	84.6	7月中旬~10月上旬	9月下旬~10月中旬	20.0	8,000	23
49	藻興部川	43.0	7月中旬~9月下旬	9月中, 下旬	30.0	2,000	24
50	興部川	45.0	7月中旬~9月下旬	9月上旬~10月上旬	30.0	2,000	25
53	雄武川	24.0	7月中旬~9月上旬	9月上旬~10月上旬	40.0	350	26
55	音稲府川	20.0	6月下旬~7月中旬	9月上旬~10月下旬	6.0	350	27
56	幌内川	35.0	6月上旬~9月中旬	8月下旬~10月中旬	5.0	2,500	28
58	音標川	24.0	7月中旬~10月下旬	9月上旬~10月下旬	4.0~10.0	600	29
60	風烈布川	30.0	7月下旬~10月中旬	9月上旬~10月下旬	20.0	500	30
66	徳志別川	35.0	7月上旬~10月下旬	9月上旬~10月下旬	20.0	3,000	31
67	幌別川	26.5	8月上旬~9月中旬	9月上旬~9月下旬	10.0	3,000	32
69	問牧川	8.0			5.0~6.0	1,100	33
70	頓別川	45.0	7月下旬~9月中旬	9月上旬~10月中旬	25.0	1,500	34
71	猿払川	45.0	7月下旬~9月中旬		25.0	3,500	35
72	猿骨川	21.0	7月下旬~9月中旬		15.0	800	36
73	鬼志別川	20.0	7月下旬~9月中旬	9月中旬~10月中旬	10.0	200	37
74	知来別川	15.0	7月下旬~9月上旬	9月上旬~9月下旬	4.0~7.0	600	38
75	ナイブトロ川	16.0	7月下旬~9月中旬		6.0	1,000	39
オホツク海区39河川						75,500	
82	増幌川	40.0	7月下旬~9月中旬	8月下旬~9月中旬	8.0	300	40
83	声問川	45.0	7月下旬~9月上旬	8月下旬~9月中旬	10.0	200	41

北海道さけ・ます・ふ化場：研究報告 第 23 号

河川表 番号	河 川 名	延 長 料 数	溯 上 時 期	産 卵 時 期	産 卵 場 (河口より の料数)	溯上推 定数		調査 河川 番号
						1	9 6 5	
89	天 塩 川	306.0	7月下旬~10月中旬	9月上旬~10月中旬			1,000	42
92	遠 別 川	68.0	8月上旬~10月上旬	9月上旬~10月中旬			100	43
99	築 別 川	30.0					500	44
100	羽 幌 川	60.0					200	45
109	小 平 薬 川	20.0					200	46
日本海区7河川							2,500	
236	ル サ 川	4.5	6月上旬~9月下旬	8月中旬~9月下旬	1.0~2.0		200	47
243	サシルイ川	9.0	6月中旬~9月下旬	8月中旬~9月下旬	1.0		500	48
244	羅 白 川	6.0	6月中旬~9月中旬	8月中旬~9月下旬	1.0~2.0		300	49
247	春刈古丹川	10.0	5月下旬~9月下旬	8月中旬~9月下旬	1.0		700	50
252	植 別 川	16.0	7月中旬~9月下旬	9月上旬~10月上旬	3.0~10.0		500	51
256	崎 無 異 川	18.0	7月中旬~9月下旬	8月中旬~10月上旬	8.0~10.0		100	52
257	薰 別 川	15.0	7月中旬~9月上旬	8月中旬~10月上旬	8.0~10.0		300	53
258	古 多 糠 川	10.0	7月中旬~9月上旬				100	54
259	忠 類 川	33.0	6月下旬~10月上旬	9月上旬~10月中旬	4.0~15.0		600	55
260	伊 茶 仁 川	8.0	6月下旬~10月上旬	9月上旬~10月中旬	5.0		100	56
261	標 津 川	58.0	6月中旬~8月下旬	9月上旬~10月上旬	45.0	25,000		57
263	当 幌 川	40.0	7月下旬~9月下旬	9月下旬~10月中旬		4,000		58
266	春 別 川	42.0	7月中旬~10月上旬	9月下旬~10月下旬	8.0~18.0	300		59
267	床 丹 川	48.0	8月上旬~10月上旬	9月下旬~10月中旬	4.0~8.6	500		60
269	西 別 川	65.0	5月中旬~9月中旬	8月下旬~9月下旬	48.0	28,000		61
272	風 蓮 川	60.0				8,000		62
275	別 当 賀 川	32.0	8月下旬~9月中旬	10月上旬~10月下旬	30.0~40.0	1,500		63
根室海区17河川							70,700	
280	別 寒 辺 牛 川	50.0	5月下旬~10月上旬	8月下旬~10月下旬	40.0	500		64
281	釧 路 川	137.6	6月中旬~10月中旬	8月下旬~10月下旬	100.0	2,000		65
282	阿 寒 川	60.0	6月下旬~10月中旬	8月下旬~10月下旬	50.0	400		66
283	庶 路 川	50.0			35.0	100		67
285	茶 路 川	52.0			40.0	100		68
287	音 別 川	48.0			30.0	100		69
288	直 別 川	13.0			10.0	100		70
291	十 勝 川	196.0	6月中旬~10月上旬	8月下旬~10月上旬	100.0	2,000		71
292	湧 洞 川	14.0				200		72
294	当 縁 川	26.0	6月上旬~8月下旬	8月下旬~10月中旬	15.0	1,000		73
295	アイボシマ川	14.0	7月上旬~8月下旬	8月下旬~10月上旬	10.0	100		74
296	歴 舟 川	55.0	7月上旬~8月下旬	8月下旬~10月下旬	30.0	1,000		75
297	紋 別 川	24.0	6月下旬~8月下旬	8月下旬~10月下旬	15.0	100		76
298	小 紋 別 川	28.0	6月下旬~8月下旬	8月下旬~10月下旬	15.0	100		77
299	豊 似 川	35.0	7月上旬~8月下旬	8月下旬~10月下旬	20.0	100		78
300	野 塚 川	25.0	7月上旬~8月下旬	8月下旬~10月下旬	15.0	100		79
301	楽 古 川	22.0	6月上旬~8月下旬	8月下旬~10月下旬	15.0	200		80
302	広 尾 川	15.0	6月上旬~8月下旬	8月下旬~10月下旬	10.0	100		81

北海道河川溯上マス調査記録

河川表 番号	河 川 名	延 長 料 数	溯 上 時 期	産 卵 時 期	産 卵 場 (河口より の料数)	溯上推	調査 河川 番号
						定数	
						1965	
304	音 調 津 川	9.0	6月上旬～8月下旬	8月下旬～10月下旬	8.0	100	82
エリモ以東海区19河川						8,400	
315	様 似 川		7月中旬～8月中旬	8月下旬～10月上旬		100	83
319	幌 別 川					100	84
324	元 浦 川		6月中旬～7月上旬	8月下旬～10月上旬		100	85
325	梟 舞 川		7月中旬～8月下旬	8月下旬～10月上旬		100	86
326	三 石 川					100	87
336	沙 流 川					500	88
337	鷗 川		6月中旬～7月下旬	8月下旬～10月上旬		100	89
エリモ以西海区7河川						1,100	
各 海 区 合 計						158,200	

サ ク ラ マ ス

別表 2

河川表 番号	河 川 名	延 長 料 数	溯 上 時 期	産 卵 時 期	産 卵 場 (河口より の料数)	溯上推	調査 河川 番号
						定数	
						1965	
1	ホロモイ川	1.5	5月上旬～8月上旬	9月中旬～10月上旬		100	1
3	オケツチウソ川	3.5	5月上旬～8月上旬	9月中旬～10月上旬		100	2
6	テツパンベツ川	5.2	5月上旬～8月下旬	9月上旬～10月上旬	2.0	150	3
7	ル シ ヤ 川	4.5	5月上旬～8月上旬	9月中旬～10月上旬	1.5	500	4
8	ポ ン ベ ツ 川	2.0	5月上旬～10月中旬	9月下旬～10月中旬	0.4	100	5
11	イタシユベツ川	5.1	5月上旬～8月下旬	9月上旬～10月上旬	2.0	700	6
12	岩 尾 別 川	7.0	5月上旬～8月上旬	9月上旬～10月上旬	1.0	1,000	7
13	幌 別 川	7.0	6月上旬～8月上旬	9月下旬～10月中旬	1.5	300	8
14	ペ レ ケ 川	7.0	5月上旬～6月上旬	9月下旬～10月中旬	2.0	100	9
15	フ ン ベ 川	6.8	5月上旬～6月下旬	9月中旬～10月上旬	1.5	100	10
18	遠 音 別 川	10.2	4月下旬～5月中旬	9月下旬～10月中旬	3.0	350	11
19	金 山 川	4.8	5月上旬～8月中旬	9月上旬～9月下旬		500	12
22	糠 真 布 川	10.2	5月上旬～8月上旬	9月上旬～10月中旬		100	13
23	海 別 川	20.5	4月中旬～7月下旬	8月中旬～9月下旬	20.0	1,000	14
24	斜 里 川	35.0	4月下旬～8月上旬	8月中旬～9月中旬	25.0	3,000	15
25	止 別 川	30.0	4月中旬～7月下旬	8月中旬～9月中旬	2.0～8.5	1,000	16
26	浦 士 別 川	20.0	4月下旬～6月中旬		15.0	300	17
28	丸 満 川	20.0	5月上旬～6月中旬	8月下旬～10月中旬	15.0	200	18
29	藻 琴 川	30.0	6月上旬～9月下旬	8月中旬～9月下旬	18.0	400	19
33	常 呂 川	145.0	4月上旬～6月下旬		80.0	2,000	20
40	湧 別 川	87.7	4月下旬～6月中旬	7月上旬～9月下旬	40.0	1,000	21
45	藻 龍 川	32.0	4月上旬～8月下旬	9月中旬～9月下旬	20.0	2,000	22
46	渚 滑 川	84.6	4月上旬～9月上旬	9月中旬～10月上旬	20.0	10,000	23

北海道さけ・ます・ふ化場：研究報告 第 23 号

河川表号	河川名	延長数 延料	溯上時期	産卵時期	産卵場 (河口よりの 料数)	溯上推 定数		調査 河川 番号
						1965		
49	藻興部川	43.0	4月上旬～5月中旬	9月中, 下旬	30.0	2,000		24
50	興部川	45.0	4月上旬～9月上旬	9月中, 下旬	30.0	2,500		25
53	雄武川	24.0	4月下旬～6月中旬	9月上旬～10月上旬	40.0	300		26
55	音稲府川	20.0	4月下旬～6月中旬	9月上旬～10月上旬	6.0	250		27
56	幌内川	35.0	5月上旬～8月下旬	8月下旬～9月下旬	5.0	550		28
57	トイナイ川	9.0	5月中旬～7月上旬	8月下旬～9月下旬	4.0	100		29
58	音標川	24.0	5月上旬～7月下旬	8月中旬～9月中旬	20.0	500		30
60	風烈布川	30.0	4月上旬～8月上旬	8月下旬～10月上旬	20.0	700		31
66	徳志別川	35.0	3月下旬～8月下旬	9月上旬～10月中旬	20.0	1,500		32
67	幌別川	26.5	4月上旬～8月上旬	8月下旬～9月中旬	1.5～2.0	2,000		33
69	間牧川	8.0			5.0～6.0	1,100		34
70	頓別川	45.0	4月下旬～6月中旬	9月上旬～10月上旬	30.0	2,000		35
71	猿払川	45.0	4月下旬～6月上旬	8月中旬～9月上旬	30.0	3,000		36
72	猿骨川	21.0	4月下旬～6月上旬	8月中旬～9月上旬	15.0	1,000		37
73	鬼志別川	20.0	4月下旬～6月上旬	8月中旬～9月上旬	10.0	900		38
74	チラクベツ川	15.0	4月下旬～6月上旬	8月下旬～9月中旬	8.0～12.0	900		39
75	ナイブトロ川	16.0	5月中旬～6月下旬	8月下旬～9月中旬	6.0～8.0	600		40
オホツク海区40河川							44,900	
82	増幌川	40.0	4月中旬～6月中旬	8月下旬～9月中旬	10.0	800		41
83	声間川	45.0	4月中旬～6月中旬	8月下旬～9月中旬	15.0	1,000		42
89	天塩川	306.0	4月中旬～7月下旬	8月下旬～10月上旬		3,000		43
92	遠別川	68.0	4月中旬～7月下旬	8月下旬～9月中旬	60.0	500		44
96	初山別川	22.0	4月中旬～8月上旬	9月上旬～10月中旬	17.0	200		45
99	築別川	30.0				100		46
100	羽幌川	60.0				150		47
101	古丹別川	62.0	4月上旬～7月下旬	8月下旬～10月上旬	50.0	200		48
109	小平薬川	57.0	4月上旬～7月中旬	8月下旬～10月上旬	40.0	200		49
112	信砂川	21.5	4月上旬～7月下旬	8月下旬～10月中旬	17.0	1,000		50
113	箸別川	16.0	4月中旬～6月下旬	8月下旬～9月下旬	8.0	100		51
114	暑寒別川	20.0	4月上旬～7月下旬	8月下旬～10月中旬	18.0	500		52
118	浜益川	20.0	4月上旬～7月下旬	8月下旬～10月中旬	10.0	300		53
120	厚田川	10.0	4月中旬～7月下旬	8月下旬～10月中旬		300		54
125	石狩川	365.0	6月上旬～8月下旬	8月下旬～10月中旬	250.0	1,500		55
135	余市川	46.0	5月上旬～7月上旬	8月下旬～10月中旬		200		56
141	美国川	20.0	5月上旬～7月上旬	8月下旬～10月中旬		200		57
143	積丹川	7.0	5月上旬～7月上旬	8月下旬～10月上旬		100		58
145	余別川	14.0	5月上旬～7月上旬	8月下旬～10月上旬		2,000		59
151	古宇川	10.0	5月上旬～7月上旬			100		60
157	堀株川	26.0	5月上旬～7月中旬			200		61
164	尻別川	90.0	5月上旬～6月下旬	8月下旬～10月上旬		3,000		62
166	朱太川	39.0	5月上旬～6月上旬	8月下旬～10月上旬		2,000		63
173	大平川	14.0	5月上旬～6月中旬	8月下旬～10月上旬		750		64
174	泊川	16.0	5月上旬～6月中旬	8月下旬～10月上旬		2,000		65
175	千走川	22.0	5月中旬～6月下旬	8月下旬～9月下旬		2,000		66

北海道河川溯上マス調査記録

河川表 番号	河 川 名	延 長 料 数	溯 上 時 期	産 卵 時 期	産 卵 場 (河口より の料数)	溯上推 定数	調査 河川 番号
						1 9 6 5	
183	須 築 川	12.0	5月上旬～7月上旬	8月下旬～9月下旬		2,000	67
188	利 別 川	55.0	5月上旬～6月中旬	8月下旬～9月下旬		4,000	68
189	太 樽 川	36.0	5月上旬～6月中旬	8月下旬～9月下旬		2,000	69
190	良 瑠 石 川	10.0	6月上旬～7月中旬	8月下旬～9月下旬		200	70
200	見 市 川	10.0	5月中旬～6月下旬	8月下旬～9月下旬		2,000	71
204	突 符 川	17.0	5月上旬～6月中旬			500	72
207	厚 沢 部 川	35.0	5月上旬～6月下旬	8月下旬～9月下旬		4,000	73
221	大 鴨 津 川	13.0	5月上旬～6月下旬	8月下旬～9月下旬		200	74
222	小 鴨 津 川	14.0	5月上旬～6月下旬	8月下旬～9月下旬		200	75
日本海区35河川						37,500	
243	羅 白 川	6.0				500	76
247	春 刈 古 丹 川	10.0				500	77
252	植 別 川	16.0	4月中旬～6月上旬	8月下旬～10月上旬		1,000	78
255	元 崎 無 異 川	8.0				100	79
256	崎 無 異 川	18.0				100	80
257	薰 別 川	15.0	4月中旬～6月下旬	8月下旬～10月上旬		200	81
258	古 多 糠 川	10.0				500	82
259	忠 類 川	33.0				4,000	83
260	伊 茶 仁 川	8.0				200	84
261	標 津 川	58.0				5,000	85
263	当 幌 川	40.0				2,000	86
266	春 別 川	42.0				700	87
267	床 丹 川	48.0				500	88
269	西 別 川	65.0				3,000	89
272	風 蓮 川	60.0				1,700	90
275	別 当 賀 川	32.0	4月中旬～6月上旬	9月下旬～10月下旬		2,000	91
根室海区16河川						22,000	
280	別 寒 辺 牛 川	50.0	4月下旬～8月上旬	8月下旬～10月上旬	40.0	500	92
281	釧 路 川	137.6	4月下旬～9月上旬	8月下旬～10月上旬	100.0	2,000	93
282	阿 寒 川	60.0	6月上旬～8月下旬	8月下旬～10月上旬	50.0	300	94
283	庶 路 川	50.0	6月上旬～8月下旬	9月上旬～9月下旬	35.0	200	95
285	茶 路 川	52.0	6月上旬～8月下旬	8月下旬～10月上旬	40.0	200	96
287	音 別 川	48.0	6月上旬～8月下旬	8月下旬～10月上旬	30.0	300	97
288	直 別 川	13.0	4月下旬～8月上旬	8月下旬～10月上旬	10.0	200	98
289	厚 内 川	36.0	4月上旬～8月上旬	8月下旬～10月上旬	30.0	100	99
291	十 勝 川	196.0	5月上旬～8月下旬	8月下旬～10月上旬	100.0	3,000	100
292	湧 洞 川	140.0	4月下旬～8月上旬	8月下旬～10月上旬	14.0	100	101
294	当 縁 川	26.0	4月下旬～8月上旬	8月下旬～10月上旬	15.0	300	102
295	アイボシマ川	14.0	4月下旬～8月上旬	8月下旬～10月上旬	14.0	100	103
296	歴 舟 川	55.0	5月上旬～8月上旬	8月下旬～10月上旬	30.0	300	104
297	紋 別 川	24.0	5月上旬～8月上旬	8月下旬～10月上旬	15.0	100	105
298	小 紋 別 川	18.0	5月上旬～8月上旬	8月下旬～10月上旬	5.0～10.0	100	106
299	小 豊 似 川	35.0	6月上旬～8月下旬	8月下旬～10月上旬	20.0	500	107

北海道さけ・ます・ふ化場：研究報告 第 23 号

河川表 番号	河 川 名	延 長 料 数	溯 上 時 期	産 卵 時 期	産 卵 場 (河口より の料数)	溯上推 定数		調 査 河 川 番 号
						1 9 6 5		
300	野 塚 川	25.0	7 月上旬～8 月下旬	8 月下旬～10 月上旬	15.0	300		108
301	楽 古 川	22.0	7 月上旬～8 月下旬	8 月下旬～10 月上旬	15.0	500		109
302	広 尾 川	15.0	7 月上旬～8 月下旬	8 月下旬～10 月上旬	10.0	400		110
304	音 調 津 川	9.0	7 月上旬～8 月下旬	8 月下旬～10 月上旬	2.0～8.0	100		111
305	猿 留 川	19.0	7 月上旬～8 月下旬	8 月下旬～10 月上旬	2.0～10.0	100		112
エリモ以東海区21河川						9,700		
308	歌 別 川	12.0				100		113
311	幌 満 川	24.0			4.0	100		114
315	様 似 川	17.0	7 月中旬～8 月中旬	9 月上旬～10 月下旬	7.0～10.0	100		115
319	幌 別 川	31.0				500		116
324	元 浦 川	42.0	6 月上旬～7 月上旬	8 月中旬～9 月中旬	32.0	500		117
325	梟 舞 川	31.0	4 月上旬～7 月上旬	8 月上旬～9 月下旬	20.0	500		118
326	三 石 川	25.0				200		119
328	捫 別 川	21.0				100		120
329	静 内 川	55.0				3,000		121
330	新 冠 川	65.0				500		122
331	厚 別 川	37.0	4 月中旬～7 月下旬	8 月下旬～9 月下旬		200		123
334	波 恵 川	22.0				100		124
335	門 別 川	28.0				100		125
336	沙 流 川	101.9	4 月上旬～7 月上旬	8 月下旬～10 月下旬	20.0～50.0	1,500		126
337	鷗 川	129.9	5 月上旬～7 月下旬	8 月下旬～9 月下旬	20.0～80.0	2,000		127
339	厚 真 川	43.0	4 月中旬～7 月中旬	8 月上旬～9 月上旬	20.0～40.0	300		128
340	安 平 川	40.0	4 月下旬～8 月上旬	8 月下旬～9 月下旬	20.0	1,500		129
342	小 糸 魚 川	13.3			9.0	300		130
343	錦 多 峰 川	13.0	5 月上旬～8 月下旬	8 月下旬～9 月下旬	8.0	200		131
345	樽 前 川	13.0	5 月上旬～8 月下旬	8 月下旬～10 月上旬	8.0	1,000		132
347	社 台 川	18.5	6 月上旬～7 月下旬	8 月中旬～9 月上旬		100		133
348	白 老 川	23.0	7 月上旬～8 月中旬	8 月下旬～9 月下旬	20.0	200		134
349	敷 生 川	25.0	7 月上旬～8 月中旬	8 月下旬～9 月下旬	14.0	200		135
350	登 別 川	16.0	5 月中旬～6 月中旬	8 月下旬～9 月下旬	10.0	100		136
351	幌 別 川	16.0	5 月中旬～6 月中旬	8 月下旬～9 月下旬	9.0	200		137
354	貫 気 別 川	31.0	5 月中旬～6 月下旬	8 月下旬～9 月上旬	15.0	200		138
357	長 万 部 川	19.0				200		139
365	遊 楽 部 川	30.0	4 月上旬～6 月下旬	8 月下旬～9 月中旬	15.0	1,000		140
368	野 田 追 川	25.0				200		141
407	汐 留 川	21.0				100		142
414	茂 辺 地 川	25.0				200		143
418	亀 川	10.0				300		144
421	木 古 内 川	15.0	5 月上旬～6 月中旬	8 月下旬～9 月上旬	15.0	200		145
425	知 内 川	25.0				200		146
エリモ以西海区34河川						16,200		
各 海 区 合 計						130,300		